



平安だより

世田谷平安教会付属平安幼稚園

2017年 7月号

「主にまかせよ」

牧師・園長 長村亮介

「やるだけのことはやって、あとのことは心の中でそっと心配しておけばよい。どうせなるようにしかならない。」
― 勝海舟 ―

これは樋野興夫ひの おきお先生の『明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい』という著書に紹介されている言葉です。樋野先生は病理学の医師ですが、「がん哲学外来」の創始者で、がんを患っておられる方がその時を乗り越えるのを支えてくれる言葉を処方して下さいます。傾聴が中心のカウンセリングとは異なり、対話の中でその人一人ひとりに「言葉の処方箋」を出して下さいます。

その本の中で、この勝海舟の言葉が目に残りました。つまらないことに悩むのは、私だけではないと思います。この言葉が処方された方は、インターネットや医学書などで病気のことを調べまくる患者さんのことです。しかし、どんなに調べても心が完全に満たされることのできないで苦しんでおられます。あるいはがんの再発を心配しすぎて何も手につかなくなつた方です。ですから「やるだけのことはやって」というのは、ネットで調べたい人は調べられるだけ調べれば良いし、再発が心配なら再発しにくいと思われる生活を出来る限り心がけたい良いということなのでしょう。それをするなど言うのも苦しまれると思います。しかし、どこまでしてもきりがないので、「あとのことは心の中でそっと心配しておけばよい。」という言葉に、樋野先生は「鷹揚で胆力のある生き方」と言っておられるように思います。

この「あとのことは心の中でそっと心配しておけばよい」がないと、「やるだけのことはやって」と「どうせなるようにしかならない」が結びつかないで、「どうせなるようにしかならない」のなら「やるだけはやる」のではなく「やってもらえない」ということになってしまいうです。「あとのことは心の中で心配しておけばよい。どうせなるようにしかならない」とは、言葉を変えれば「任せる」・「委ねる」ということではないでしょうか。「やるだけのことはやる。あとのことは任せる。」ということ

問題は「何に、誰に任せるか」です。勝海舟も、ただ成り行きに任せるというのではなかったはずで、天命に任せるという気持ちがあるからこそ「やるだけのことはやって」という意味も出て来るのではないのでしょうか。クリスチャンの場合は、イエスキリストにお任せします。私たちのことを愛してくださる神さまは、私たちにとつて最善のことを為してくださるのです。それがたとえ私たちの思いや願いとは異なっているとしても、私たちが生きていても、… たとえ死んだとしても、それには大きな意味のあることに違いありません。 Ω

主にまかせよ、汝が身を、
主はよろこび たすけまさん
しのびて 春を待て、
雪はとけて 花は咲かん
あらしにも やみにも
ただまかせよ、汝が身を。

(讚美歌二九一番)